

【審判上の確認事項】

本大会は、2025年度公益財団法人日本バレーボール協会の定める6人制競技規則による。但し、別に定める小学生バレーボール競技規則を用いる。

<ルール取り扱いについて>

- 1 児童の善い行いに対しては、フェアプレー精神の育成のため積極的にグリーンカードを出してください
- 2 モップ、チームの荷物は安全のためにベンチ裏、イスの下に置く。スペースが無ければベンチ横でもよい
- 3 靴ひもを結ぶ行為は安全を確保するため、結び直しをさせる。執拗に繰り返す場合は遅延行為になる
- 4 トスは記録席前で試合開始前に行う。キャプテンが立ち会い、キャプテンマークのついたユニフォームを着用する事。トスにて先に権利を得たチームは、サービスを行うか、レシーブを行うか、または、どちらのコートに入るかを選択する。監督及びチームキャプテンは、公式練習前に記録席で、記録用紙に氏名を記入すること。また、チームキャプテンは、試合終了後も速やかに記録用紙にサインすること。
- 5 公式練習はサービスを得たチームから行う。公式にエントリーされた選手以外は公式練習に参加できない
- 6 サービスは、決められた順序に従って打つ。間違いがないよう、ベンチスタッフも十分注意する。
- 7 スクリーンについて、1stレフェリーは選手の位置をよく確認してから、サービス許可を行う事。
※戦術的にスクリーンを形成する事を許さない。スクリーンに関する注意は何度も行う事ができる
- 8 監督は、記録席に最も近い席に着席し、フリーゾーン内ならば一時的にベンチを離れて、コート上の選手に指示を与えても良い。ただし、サービス許可後は、速やかにベンチに着席し、ラリー中は座っておかなければならない。
※みだりに監督が立ち上がったたりする行為を許容するものではない。過度に目的から逸脱してはならない。監督及びベンチスタッフが喜びを表す表現として偶発的に立ち上がったたりする行為は許容範囲である。毎回のよう立ち上がったたり、あるいはベンチから数歩前に出たりする行為はルール違反であり、ベンチスタッフがコート上の選手とハイタッチをしたり、跳んだり跳ねたりする行為を許容するものではない。
- 9 明らかに選手・チームを威嚇する行為、反スポーツマン的の行為(暴力)や言動(暴言)に対しては厳正に処理する。※コート警告・失格・退場など
- 10 1セットにつき12回までの選手交代が認められる。ラリー中は、交代競技者はベンチに着席しているか、ウォームアップエリアに位置していること 2ndレフェリーは記録を確認し、11回目と12回目の選手交代を1stレフェリー及び監督に通告する。
- 11 レフェリーに対する質問はゲームキャプテンのみに認められる権利である 要求する権利のない者が要求した時など、タイムアウト及び競技者交代時の不当な要求は拒否される またプレーに影響を及ぼしたり、同一試合中に同一チームの競技参加者が不当な要求を繰り返したりしたときはそのチームを 試合の遅延として処置する
- 12 ユニフォームからはみ出したアンダーウェアは禁止する。
- 13 髪の毛がネットに触れた場合、からみついたりしない限り、反則としない
- 14 試合の継続が危険な状況であるとレフェリーが判断した場合は、ラリーをノーカウントとする。
※隣のコートよりボール・選手が試合をするコートに侵入した。ネット際でなんらかの事情で選手が負傷した場合など
- 15 競技者が負傷して例外的な選手交代をした場合、負傷した競技者は、その試合に復帰することはできない。
- 16 必ずワイピング(タオル)を準備し、試合中コート内の選手は、床の汗を拭き取る事。
※トスの際に審判より必ず伝える事。ボールに付着した汗の拭きとりなどはその都度審判に申し出る事。

<レフェリーについて>

- I 予選リーグ及び決勝トーナメントの審判員配置については、抽選会後周知致します。
予選及び決勝トーナメント(1日目)については、各ブロックの空きチーム・負けチームにて相互審判となります。決勝トーナメント(2日目)第1試合については、第3試合(場合によっては第2試合)のチーム、以降決勝戦を含め負けチームにて審判・補助員よろしくお願いします。
※公認審判資格(C級・B級)を持つ方は、2日目以降のご協力をお願い致します
※補助員については極力ユニフォーム(試合と連続して審判を行う際は臨機応変に対応)では行わないこと。ラインジャッジについては、チーム内で育成・指導を行う事。
- II 1st・2ndレフェリー・記録員はサービスオーダーの確認に注意を払う
- III 1stレフェリーは試合の最終決定者であり、副審・ラインジャッジの判定を総合的に判断しジャッジする事。
但し1stレフェリーは、取扱いの疑惑について、レフェリーの判断でコントローラー/審判長/副審判長の意見を聞くことができる。